

曾爾野外活動(5年生)



写真は加工して掲載しています



写真は加工して掲載しています



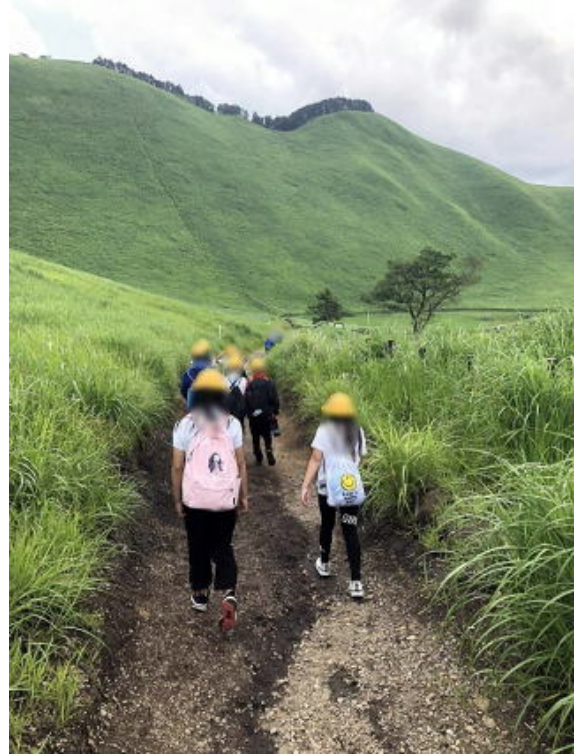
写真は加工して掲載しています



写真は加工して掲載しています



写真は加工して掲載しています



写真は加工して掲載しています

曾爾高原での1泊2日の野外活動で、子どもたちはひとまわりもふたまわりも大きく成長したと思います。

突然の雷雨に自然の厳しさを感じることができました。

キャンドルファイヤーでは、互いの最高の笑顔を見ることができ、友情を確かめ合うことができました。

2日目は何とかお天気にも恵まれ、なかまと知恵と力をあわせフォトテリングを楽しみました。

学校に戻ったときにはまた雷雨。お天気だけは、私たちの力ではどうにもなりません。こんなに変化の大きかったお天気の中でも、楽しく、たくましく活動できた子どもたちを誇りに思います。

一輪車のご寄贈にあたって、奈良新聞に掲載していただきました。

いよいよ休み時間、運動場での活用がスタートしました。休み時間を学年に割り振り、混雑を避けて利用します。感謝の気持ちを忘れず、譲り合って使ってほしいなあと思っています。

初めてチャレンジする子どももいます。「継続は力なり」チャレンジし続けることで、そのうちきっと上手に乗れるようになりますよ。

一輪車楽しく活用を

梅本樹脂工業 新沢小に15台寄贈

プラスチック成型の「梅本樹脂工業」(大和高田市)が、このほど、本樹脂工業(大和高田市)・橿原市一町の新沢小学校



(岡田寛人校長)に一輪車15台を寄贈した。

梅本社長(51)が卒業生という縁で、体力づくりに活用していた同校の一輪車が老朽化していたことから、贈ることを決めた。

同校は毎秋、3年生が同社の工場見学を訪れるなどして交流。これまでも新型コロナウイルス感染症予防の消毒液スタンドなどを寄贈してきた。

寄贈された一輪車を紹介する岡田校長(24日、橿原市一町の新沢小学校)

また、同校は一輪車の寄贈を機に、運動場の一角に一輪車用の練習施設を整備。寄贈式の様子は撮影して、給食時に各教室のモニターで児童に見せた。

岡田校長は「児童はとても喜んでいて、地域に支えられている一つの象徴として、一輪車を見たり、乗るたびに感謝の気持ちを感じてほしい」と感謝を述べた。梅本社長は「児童数が減少する中、小学校の魅力向上の支援をすることで児童が増え、地域の活性化につながれば」と話した。